

# 電友会四国連合会報

第 42 号

58. 4



## 目次

電友会の皆様へ……………	四国電気通信局長……………	二
会社のうごき……………		二
電電公社人事異動……………		三
公社だより……………		三
共済会だより……………		四
表紙のことば……………		四
短歌……………	山内 旬一……………	四
川柳……………	福田秋風郎 合田 勇……………	五
随筆……………		五
猪谷 嘉夫……………	井上ひろし……………	沖見 章
越久田保之……………	木村 利一……………	後藤 稔
十河 歳勝……………	松房 実……………	松原 初夫
宮本 清和……………	布川 実……………	大手 待雄
訃報……………		九
俳句……………		二〇
編集後記……………		二〇

## 電友会の皆様へ

四国電気通信局長

小川 伸 夫



水ようやくぬる  
頃となりましたが、  
四国電友会の皆様  
にはますますご健  
勝のこととお喜び  
申し上げます。

去る一月二十一日付をもって四国電気通信局長を拝命しました小川伸夫でございます。私にとって、四国は初めての勤務であります。が、美しい自然と豊かな人情に満ちたこの土地に勤務できますことを、大変幸せに思っております。

電電公社は現在、経営形態問題をはじめ、いくつかの大きな課題を抱えておりますが、私は、どうすれば利用者の皆さまに最もよいサービスを、より安く提供できるかという視点にたつて事業運営に取り組んでいく考えであります。

ご存じのように、いまや電気通信サービスに対する社会の要望は、ますます高度化・多様化しており、きめ細かなサービスの充実が求められております。

特に最近ではデータ通信、ファクシミリ通信などの多彩な非電話系サービスの普及が目ざましく、「プリンタホン」「ディスプレイホ

ン」「新形電話ファクス」「新データ網サービス」等の新しいサービスを導入し、地域社会の要望に添えてまいりました。

今後においても新しい商品やサービスの普及拡大を図るとともに、将来のINS（高度情報通信システム）の形成にむけて、「光ファイバーケーブル」の敷設や、デジタル交換機の導入などにも積極的に取り組み、情報格差等の生じないようにしていかねばならないと考えております。

四国は台風が多いところと承知しておりますが、私はかつて本社施設局および保全局で災害対策を担当したこともあり、その重要性については十分認識しております。四国特有の対策も必要であり、万一被害を受けた場合でも、通信が途絶することのないよう回線の二ルート化、ループ化など、台風や災害に強い設備についても心がけたいと考えます。

今後の高度情報化社会の進展に伴い、社会基盤としての電気通信のより一層の高度化、多様化が求められていくものと考えられますが、電気通信の中核的役割を担う公社といたしましては、これに適切に添えていくことが事業にとつて大きな課題であります。

そのため、利用者の皆様のご意見・ご要望に積極的に耳を傾け、これを事業に反映するため「お客様代表者会議」を管内的に設置しましたが、これと相まって地域の人人々に親しまれ、信頼される「町の電話局づくり」を推進する広聴活動（オレンジライン）地域社会活動を、いっそう充実させるよう努めてまいり所存でございます。

公社事業を運営していくうえにおいては、

地域の人達との密接なつながり、地域社会の理解と協力が不可欠であります。公社事業に深いご理解と豊かな経験を持たれ、地域社会において厚い信望を得ておられる先輩の皆様方のお力添えを心からお願いたします。終わりになりましたが、皆様方のますますのご健康とご活躍、並びに電友会のご発展を心からお祈りいたしまして、ごあいさついたします。



### 四国初の「光ファイバーケーブル」 建設工事始まる

— 3月18日から、松山～高松間で—

四国で初めての「光ファイバーケーブル」の建設工事が三月一八日、松山～高松間で始まった。

この建設工事は、松山～高松間二一〇キロメートルの地下管路に光ファイバーケーブル（一〇心ケーブル）を敷設するもので、松山（松山統話中）～北条（北条報話局）間で着工したのを皮切りに、一一区間で順次、工事を行い、五九年四月に完工することとしてゐる。総工費は約二八億円である。

なお、この工事が完成し、実際に光ファイバーケーブルを使って、電話やデータ通信などのサービスを開始するのは五九年六月の予定となっている。

この光ファイバーケーブルは、公社が取り組んでいるINS（高度情報通信システム）

の基盤となる「通信網のデジタル化」の一環として建設するもので、四国のデジタル伝送路の基幹となるばかりでなく、建設予定の「光ファイバーケーブル札幌〜福岡間日本縦貫ルート」とともに、将来、日本の骨格伝送路となるものである。

光ファイバーは、髪の毛ほどの細い（直径0.1mm）ガラス繊維のファイバーで、電気信号を半導体レーザーによって光信号に変換し、多量の情報を、正確に、遠くまで送ることが出来る伝送路である。松山〜高松間に敷設する光ファイバーケーブルは二心の光ファイバーケーブルを一組（一システム）として、一秒間に四億個の信号（ビット）を送送できる大容量伝送方式であり、電話に換算すると、一システムで五、七六〇回線分に相当する。

また、この大容量伝送方式は、伝送損失が少ないため、最大二五キロメートルまで無中継（同軸ケーブルの場合1.5km）で伝送でき、経済性にも優れている。

四国管内では、INSへの取り組みとして、今年度から「松山〜高松間光ファイバーケーブル」の建設、松山電話局（増築棟・五八年二月完成）への市外デジタル交換機の導入（五八年五月搬入予定）について準備を進めてきたが、今回、光ファイバーケーブルの建設に着手する運びとなったものであり、この工事は「四国におけるINS形成への第一歩」をしるす歴史的な電気通信工事となる。

電電公社人事異動（敬称略）

四国電気通信局長

（五八・一・二二）  
小川 伸夫

伊予中山電報電話局長

（五八・二・一五）  
戒田 敏雄

（五八・一・二八）

四国電気通信局副局長  
文書広報課長  
経営調査室長  
計画部長  
施設部長  
四国電気通信学園長  
徳島電気通信部長  
松山無線通信部長

松山搬送通信部長  
八幡浜電報電話局長  
宇和 同  
今治 同  
新居浜 同  
西条 同  
伯方 同

（五八・二・四）

高松電報局長  
琴平電報電話局長  
観音寺 同  
三本松 同  
鳴門 同  
小松島 同  
阿波勝浦同  
丹生谷 同  
日和佐 同  
須崎 同  
土佐山田同  
嶺北杉 同  
松山統制電話中継所長  
高松 同

棚橋 信之  
芳野 運  
西岡 慶文  
原島 康博  
森 邦彦  
穴吹 義教  
波頭 巖  
中野 好男  
松尾 義一  
金清 道保  
多田 年夫  
半明 孝治  
高本 隆之  
三好 章雄  
和田 義雄  
山内 宜英  
福本 孝平  
徳広 孝敏  
松尾 礼徹  
栗林 久芳  
黒田 和雄  
中屋 廣  
植松 貞夫  
仲谷 昭  
宮地 聖  
高田 文一  
武井 宗彦  
堀 佳城  
久永 明

内子 電報電話局長  
城川 同  
野村 同  
川之江 同  
讃岐三木同  
志度 同  
多度津 同  
高瀬 同  
石井 同  
板野 同  
南国 同  
吾北 同  
江川崎 同  
土佐大月同  
赤岡 同  
八幡浜統制電話中継所長  
今治 同  
新居浜 同  
丸亀 同  
徳島 同  
須崎 同  
宇和島統制無線中継所長  
高松統制無線中継所長

石井 丁文  
仙波 克之  
平松 孝男  
中須賀 忍  
藤本伊勢吉  
村井 庄一  
村尾 良一  
稲田 猛  
滝本 義視  
新谷 照男  
網江 功  
梶田 留喜  
大森 利彦  
大野 侃一  
酒本 好人  
平家 俊一  
森 正  
石田 幸男  
小宮 政雄  
長田 昌光  
山口 常夫  
蝶野 尚生  
篠崎 英夫



生きている証拠を

四月は年金受給者の受給資格を確認する月です。共済組合四国支部から送付される証明のハガキに、居住地の市町村長の証明を受け、期日までに必ず提出先へ出して下さい。

○証明は五十八年四月一日以降であること。

○提出期限 五十八年四月十五日(必着)  
 ○提出先 ①七九〇松山市一番町四一三  
 ②四国電気通信局職員部厚生課  
 共済係

共済会だより (三)

◎五八年度退職者文化活動計画のあらまし、概要、次のような計画を進めたいと考えています。多数の方々の参加を期待しています。

一 文化講演会

実施時期を含め、昨年に準じ四県庁所在地で開催します。

二、サークル援助

昨年同様、五七年度中の活動実績と、五八年度の予定計画を提供していただき、その内容により援助額を決定することにしていきますが、発足頭初に比べ年々サークル数、会員数とも増加しており、加えて支部へ令達される予算減との関連もあって、さらに今年度も援助額の見直しを行い減査定をせざるを得ない実情でありますので御了知願います。

三 電電OB大学(一般教養科)

昨年に準じ、松山近郊の退職者を対象に文化講座を開設することになっていますが、社会見学コース等については、参加者に経費の一部負担をしていただきます。

この会報が発行される頃には、受講ご希望の方々は御案内が届いていると思いますがその概要は次のとおりです。

(講師等の都合で計画を一部変更することがあります)

回	日	時	テーマ	講師等
1	4. 15(金)	13 : 30 ~ 15 : 30	怨念総理の椅子	南海放送 参与 細田 虔
2	5. 19(木)	9 : 00 ~ 17 : 00	生きがいを求めて	西山興隆寺 院家 大沢 自聚
3	6. 17(金)	13 : 30 ~ 15 : 30	ボランティア活動	県社会福祉協議会 参事 楠野 義計
4	9. 9(金)	13 : 30 ~ 15 : 30	老人と健康	愛媛薬草愛好会 会長 宮内 信雄
5	10. 20(木)	10 : 00 ~ 17 : 30	瑞応寺、別子銅山記念館の史跡を探る	
6	11. 11(金)	11. 12(土) (1泊2日)	別府、深耶馬溪、羅漢寺、青の洞門 宇佐八幡宮の社会見学	
7	12. 16(金)	13 : 30 ~ 16 : 30	受講生有志による発表	四名 (一人三〇分程度)

四 趣味の作品展

退職者談話室「ともがき荘」を利用し開催することになっています。開催時期等については別途ご案内致します。

五 正月盆裁のつくり方

園芸講座ご希望の皆さん方に喜んで頂いている正月盆裁、今年度も計画しています。

六 渡部義綱先生に感謝状

去る二月十日共済会創立第三十一回目の記念式典において退職者文化事業の園芸講



師として、制度発足頭初から事業推進に功績のあった渡部先生に感謝状を贈呈し、お礼を申しあげました。

表紙のことは 春の小雀

莊野丹秀(内海)

陽春の庭木には小雀がチュンチュンと鳴きながらよく飛んでくる。小さいものの生命は美しく可憐である。……のどかな一日。

短歌

庭の松

山内 旬一(松山)

苔の中より生えて丈余の松十株日に日にもだに吾は寄りつつ  
 わが庭を十松苑と呼びなむか白生の松の枝交はし合ふ  
 岬より河口にとほり冬日光る鷗の群の去りたる潮路  
 家の外の孫は稀まれに見るなれど庭畑の蚕豆は日にいくたびも  
 かすみ易きは老の眼のやむなしと医師に言はれてうなづきにけり



福田秋風郎 (松山)

保釈金やっぱり金の効く世界  
凡人に産んで努力の子に育て  
瓜の蔓に茄子はならない通知表  
瘦せ馬に鞭停年が少し延び  
氷山の一角孤児は成田着

合田 勇 (松山)

子は鏡父の避まで似て育ち  
目覚しは野鳥に頼み日平和  
振り向けば曾孫も二人縄電車

随

筆



(欧州記行(二))

超ミニ二国から白鳥城へ

猪谷 嘉夫 (高松)

スイスのルツェルンから北東に走り、ラ  
イン川を渡ればリヒテンシュタイン公園。  
高松より少し狭く人口二一三万の超ミニ二国  
主都ファドーツも一つまみ程の街だが、路  
辺に草花を植え五色の幟をなびかせ、お伽の  
国さながらの景観。この国は切手マニアには  
垂涎の国。世界の切手が集まるほか、この国  
も切手を発行している。その収入で税金のな  
い現世の天国。街の背後にある二百メートル

ぐらいの山上に王宮である古城があり、公主  
が居住している。僅かの時間を息せききって  
頂上に上り、王宮などカメラにおさめる。

この国を出ればオーストリア、更に少し進  
めばドイツ。両国境とも旅券を提示せず至極  
簡単に通過。南ドイツのこの地方はババリと  
いう。起伏のある農村地帯を蛇行しつつ目指  
すノイシュバンシュタイン―白鳥城に着く。

ノイシュバンシュタインは、峨々とした山  
山を背にアルプ湖を見下す崖の上に白亜の五  
層建て、その中央両側には尖った青銅の屋根  
の円塔が聳え、その周囲に方形の小尖塔が並  
び、玄関は両側に円塔を配した赤色煉瓦造り  
三層建、玄関と主家の間は高さや形を違えた  
建物の連続で思わず息をのむ有様。

若くしてバイエルン国の王となったルード  
リッヒ二世はワグナーと親交があり、彼が作  
曲した「ローエングリン」や「タンホイザー」  
の騎士を夢みてつくったのがこの城。日本人  
客も多いため、内部の説明は録音の日本語で  
行われている。部屋は壁面、天井とも彩色画  
で飾られている。このような華麗な城を造つ  
た若き王も、浪費癖のため禁治産の宣告をう  
け、間もなくミュンヘン郊外に幽閉された。  
下山すれば夕暮、大急ぎでインスブルック  
に向う。

ふる里の見直し

井上ひろし (高知)

郷土の有・無形の文化財・民俗資料・行事  
には、祖先が精魂こめて当時の生活に立ち向  
った痕跡を、ありありと見ることが出来るが、  
最近の世相として、少数の専門家を除いて徐

々に関心がうすれて行くのではないかと思わ  
れる。

縣や市町村の観光連盟や、教育団体が提携  
して、毎年恒例的に「ふる里見直しツアー」  
と銘うって、一泊程度のバス旅行などを企画  
し、その地域の名所や旧蹟・史蹟などを廻つ  
たり、民俗資料を見学するなど、因って来た  
歴史を繙き、もう一度ふる里の良さを見直そ  
うとしているのは、大人の社会学として時機  
を得た大変結構なことである。

しかしながら、その計画も、地域すなわち  
「面」を対象としたもので、観光の枠や、時  
季的制約もあって、隠された「点」の文化財  
や行事の見学などは除外されるケースが少く  
ない。

例えば、数百年前から行われ継がれてきた  
香美郡夜須町・西山八幡宮の百手祭(二月初  
卯・辰の日)、安芸郡北川村・金宝寺のお弓  
祭(偶数年の一月八日)、土佐市宇佐町・青  
竜寺の大漁祈願祭(旧一月二十八日)、中村  
市八束の大文字の送り火(旧七月十六日)な  
ど、枚挙にいとまがない。これら「点」の行  
事は、その昔を偲んで郷愁をそそるものがあ  
り、民俗資料としても、観光資源としても貴  
重な価値をもつものが多く、また、大豊町立  
川、本川村越裏門、大正町森ケ内などに保存  
されている古い民家は、建築学上からも歴史  
学上からも参考資料となる貴重なものである  
が、地の利が悪く時間もかかるため、一般的  
な観光ツアーからは除外されるのは残念なこ  
とである。

私は、これらのふる里に点在する隠れた数  
多くの行事や、文化財を自分でも認識し、も

っと多くの人々に見てもらい、知ってもらって、祖先が築いた郷土の良さを見直してもらいたいと思うし、出来ることなら歌碑や句碑などに記録して、後世にその郷愁を伝え残してもらいたいものだと思っている。

これは金も足も持たない一市井人の繰り言でもある。

## 第二の職場で二年

沖見 章(高松)

第二の職場が高松になろうとは夢にも思っていなかったのに、その高松で早くも二年になろうとしています。香川県の皆様には大変お世話になります。会社には申し訳ないが、現職の時より身心ともに余裕ができてきたように思われます。

今頃になって、人に誇れる趣味もたず淋しく思っていました。健康のため昨年一大決心をして、ロイヤルのゴルフ会員になりました。ハンディ(二三)の組持ちが非常に困難なことを痛感しています。また、十四年振りでOB囲碁クラブに入会させてもらいましたが、いまだ全勝できず、七級から進級しません。初段を目標に頑張るつもりです。

謡曲はかなりキャリヤがありますが、上達しません。亀謡会(丸亀局)に年二回お誘いいただいで楽しんでます。

会社では土木部門を担当していますが、入社の際から、通信土木の工事は急激に減少をたどり、通信土木のみでは会社経営を悪化させる恐れがでてきました。会社総裁からも公社への依存度を小さくするようにとのご提

言があり、一般土木に手を出すこととして二年になります。一般土木業界も不況の波に襲われ、ひしめく中小企業は厳しい環境で四苦八苦の状態です。その中へ割り込むには相当以上の努力と実績の積み重ねが必要です。

通信土木の施工を主体としながら、一般土木の技術を修得し、円滑に施工体制を移行確立することによって、健全な経営の維持、発展に全社を挙げて取り組んでいるところで、一般土木には無縁であった私も、微力を盡してOBの名に恥じないよう努めていきたいと念願しています。

## ぼけの花

越久田保之(徳島)

冬枯れた寂しい庭にいろどりを添えてくれた深紅や純白の山茶花もすでにない。

暖冬で例年より早く咲いた紅梅は、未練がましく枝にしがみついて、醜く残がいさらしている。

この中であって、僅かに目を楽しませてくれているのが一株の木瓜(ぼけ)の花である。一米たらずの木であるが、やや青味をおびた白い花が、蕾とともに枝にびったりとくっついて横向きに咲いている。暖かさを感じさせる丸味のある明るい、かわいい花である。春が来たのだなあ、という気分させてくれる。またの名を報春花と呼ばれるのもこのゆえんであろう。

木瓜の花は、葉に先だって開き、色は紅、白、淡紅など豊富である。花が終ると、まもなく新葉がでてきて、大粒の果実を結ぶが、成熟するまでにほとんどが落ちてしまう。僅

かに残った果実は黄色に熟して芳香を放つ。月ノ宮ゴルフコース九番のティーグラウンド附近に、数株の木瓜がある。

このコースは、月ノ宮では、ただ一箇所ある登り坂で、しかもアウト最終とあって緊張する場所でもある。

ここに咲く淡紅色の華麗な木瓜の花は、ゴルフファターの目をこよなく楽しませ、気持の転換と緊張からの硬さをほぐしてくれる。そして次のインコースへの挑戦の原動力みたいなものをかきたててくれるように思われる。

やがてこの木瓜の花もほころぶことであろう。もう春の足音が聞えてきているから。ながらくご無沙汰している月ノ宮の青い芝生に思いを馳せる昨今である。

## 台湾親善テニス旅行記

木村 利一(松山)

愛媛、香川両県の有志二十一名が、親善テニス試合のため四泊五日の日程で台中、台北に行くことになり、電電OBからは田内長兵衛、福山岩雄両氏と私が参加した。

一月二十日大阪空港を出発、三時間足らずで台北に着く。台北の桃園新空港は整備されると成田空港より規模が大きいということであった。

空港は準戦時体制をとっているとのこと。緊張した空気であったが、一歩外に出ると平穩なもの、バスで二時間三十分位で台中に到着した。台中の街は近代的なビルもあるが壊れかかった煉瓦の家も目につき、新旧入り交った新興都市の感じであった。

翌日、日月潭(湖)に行く。湖畔に建てら

れた孔子・関羽を祀る文武廟に詣でる。その華麗なさまは日光東照宮に匹敵すると思われる。その上個人が建立、寄付したものであると聞いて再度びっくり。そのあと中山公園コートにおいて試合をし台北に帰る。

次の日、観光と温泉で有名な烏来（ウーライ）に行く。白糸の滝という日本にもありそうな名の雄大な滝を見、雨の中をトロッコで山上に行き高砂族の民族踊りを見たが、小民族の悲哀がいつまでも胸に残った。

この日の試合は雨のため体育館で行なうこととなったが、会場には数百人の小、中学生それに音楽隊も動員しての歓迎振りに度肝を抜かれた。

最終日は国立故宮博物館に行く。ここに陳列されている中国古代の美術品は、中国から台湾に疎開するにあたって軍艦三隻によって運ばれたと聞いているが、その数は数万点に及ぶと言われ、清朝、明朝はもとよりそれ以前の古代のものが所狭しと置かれ、数回に分けて交替で陳列される模様であるが、中国文化を知るには何れも貴重なものばかりであった。

今回の旅で感じたことは、台湾では年配者は日本語が話せるし、買物をして日本のは通貨が通用するので、不自由は何も覚え、そのうえ台湾の人々が心から歓迎してくれて、わだかまりなく話し合うことができたことで、親善という点では誠に有意義な旅行であったということである。



## 神 南 山

後藤 稔（大洲）

大洲菅田の能登団地造成地へ家を建て転居してきたのは春まだ浅い二月のことであった。町に住み馴れた家族達は、田舎のしかも我が家を含めて当時三軒だけの広い造成地での生活は、随分淋しい思いをしたようである。標高七一〇メートルの神南山が―見上げるようにその前に立ちはだかっていた。

当時八幡浜局にいた私は、通勤の帰路夜屋トンネルを過ぎて大洲市内にはいると、まず神南山が一番先に目にとまる。それは夕焼け空に燃えるように浮ぶ姿であったり、時雨に煙る薄い墨絵にも似た姿であったり、四季のうつろいと天候の如何によってよそおいを変えて迎えてくれるように私には思われた。

造成地にはつぎつぎに家が建って人もふえ、転居の頃の淋しさもなく、私も退職してのんびりできるようになった春の一日、私達の団地をずっと見守り続け、また通勤の日私を迎えてくれた神南山に登ってみようと思いい立ち、このことは突然の思いつきではなく、かねてから望んでいたことであつたが、妻を誘って出発した。

山道は想象していたよりはるかに悪く、杣道を頼りに繋いだ萱や茨を押ししのけながら汗を拭き拭き登ること数とき。ときに小鳥がチチと頭上を渡り、吹き抜ける風が音を残してゆく以外は寂として静まり、やさしく見えていながら厳として峻しい山頂への道はなかなか遠く、疲れをこらえて一心に登るうち、薄暗い雑木林を抜けるとパット視界が開けて道

標があり、やっとにして念願の頂上に達することができた。毎日この山を目の前にしているながら登る機会がなく、今ようやく思いを果たして神南山の山頂に立つことができ、満足感にしばらく我を忘れる思いであった。

眼下に展げる眺望を楽しんだあと、再度道をかえて登ってみようと心に期し、願望成った足どりの軽く、妻をいたわりつつ下山した。

## 生活のリズム

十河 歳勝（高松）

単身生活も長期になると、毎度の食事を外食や店屋物ばかりでは済まされなくなり、菜根譚を地てゆく大人物になるか、或は料理の新手法をあみだすひとかどの評論家になるのが普通であろう。

ところが幸か不幸か、生来不精者のうえに、単身生活も僅かしかなく、公社を卒業するまで台所とは殆んど縁がなかった。

再就職して、比較的定時に帰宅できるようになると、その日の用事をすませたあとは、早速晩酌を嗜むので、夕食後の八時頃には就寝するのが通例となった。

当然翌朝四時前には目覚めるので、二時間余り床の中で月刊物、単行本等硬軟おりませた雑学にはげむこととなる。したがって家内の方は生活のズレが二―三時間もでき、夜明前からザワザワするので敬遠されてしまい、別居生活のようになってしまった。

こちらは早晩から勉強？をしているので、お腹の空くことおびただしい。やむをえず六時には起床し、宵に家内がしかけた炊飯器にスイッチを入れると同時に、味噌汁をつくる

こととなる。初めは見様見まねであったが、この頃は一瀉千里にアゲ、大根、人参、ワカメ等をきざみ、汁の量に依じた味噌加減も、この四年間にすっかり覚えてしまった。また具は少いより多いほうが健康的なこと、市販のダシより煮干しの方が味が良いこと等を会得し、最近では、名だたる臨調会長の土光さんを見習って焼きたてのメザシの如何にうまいかを知った。できた朝飯をパクつき、新聞を読んでいると、やおら家内の登場と相成り、前夜のテレビの耳学問となる。こうした一風かわった生活のリズムに私は満足している。おかげで通勤電車で遅れたことは一回もない。

### 散歩をしよう!!

松房 実(高松)

人間は二本足で立ち上ることによって、手を自由に使えることになり、重い脳を支えることができ、脳の発達を助けて、今日の文明を築いた。

エジプトのスフィンクスが旅人に問うた有名な謎の「生れて四本足、次で二本足、終りは三本足の動物は？」答は人間である。

人間の生活の活躍時代は二本足時代である。この二本足を利用して体力保持を計ることは、吾々退職者としては全く経済的で、暇な時に容易にできる運動である。

散歩をしよう!!これは私が昔から推奨しているモットーである。

ところで散歩について一言申し添えます。

皆様は散歩と言えば単にブラブラと歩くだけと思われ勝ですが、それでは何の運動にもならない。むしろ疲れるだけのものです。

散歩を運動とする大切な条件は、散歩によって汗ばむことである。汗ばむことは体の新陳代謝を促すことである。新陳代謝は体の細胞に活力を与え、引いては食事も美味に進むことになる。そして体力は充実して若返りに連なることになる。若返りは吾々退職者にとって大切なことである。老けてはならない。ここで私事を一文挿入。

私は夕方の散歩が好きである。明るい日差から夕方の赤い空気が、次で紫色に暮れ、やがて夜のとばりに包まれる景色の変化が好きである。季節による光と影の変化は素晴らしい。散歩の醍醐味である。勿論汗ばむ速度で歩いている。在職時から今に続いている。お蔭様で健康を保持している。

どうか皆様、健康保持して愉快的な人生が続けられますように、大いに頑張って汗ばむ散歩を続けましょう。

### 無 趣 味

松原 初夫(徳島)

多くの人達に出会う機会に恵まれ、その都度「郷に入れば郷に従え」で、時と場所に合わせ仲間入りをさせてもらい、教えてもらったお付き合いの結果覚えたりしたものは沢山ありながら、さて人前で自信をもって「まかせといってください」と言い切れるものはないような気がする。

写真、書、釣り、ゴルフ、将棋、麻雀、古美術などどれも入口でとまってしまい、話しの

仲間入りができる程度、「多芸は無芸」びつたりの感。

「どれもまともにできないくせして批評だけは一人前」と妻にわらわれる始末。

いつかお付き合いの末に落ちついたスタンダードで、頭上に懸った人魚の版画が目にとまり、聞くとお客の一人が趣味で作ったものを寄贈してくれたとのこと。いたく気に入って「私もやってみようか」と同行の友人に話すと、「お前は浮気な奴じゃ、何にでも手を出したがる」と言われたが、いい加減で趣味の浮気も中止しなくてはなるまいと思っはいるが。

今続けているものは、盆栽、蘭、写真で、妻に奨められ半年前から日本画とカラオケを教室に通って勉強中である。

昨年三月、末娘が妻の誕生日のプレゼントに、生後一か月のマルチーズをおいていった。このペット可愛いもので、早速泥縄式で飼育法を勉強し今では家族の一員となっているが、室内犬の寿命は十年前後と言われており、永いお付き合いになるものと覚悟している。

### 広島電信第二連隊の会に出席して

宮本 清和(琴平)

若い頃にいだいた夢や、努力によって乗り切ってきた苦しい思い出は誰もが持っていることだろう。それは自らが刻んだ人生の節目でもあるから。

私は、暁比治山会の一員として過日広島比治山福祉会館に赴いた。かつて暁部隊としてこの地で共に軍隊生活を送った戦友達の再会のつどいであった。

会場の福祉会館は、三十数年前の大本営跡



の比治山上にあって、私たちが初年兵時代毎朝この山に登り、明けきらぬ広島市を眼下に軍歌をうたったなつかしい思い出があり、今機会を得て再びこの山上に立つと、往時が偲ばれて懐旧の情一入強く、まして多くの戦友達が戦場に散り、その方々とは無との再会であってみれば、集まってきた老戦友の口々から期せずして流れ出た軍歌に、涙を禁じるこ

とがでなかつた。  
目黒の無線電信講習所船舶科を卒業した私たちは、その年広島電信第二連隊船舶通信隊補充隊に入隊、四か月で通信将校として宇品港を出航し戦場にむかい、二年有餘ヶ月の間世界の海を駆けめぐって転戦した。

あれから三十余年、思えば一場の夢のようで、今次集まったの方からも、若く逞ましかつたかつての姿はうかがえない程の長い長い時の流れがあつたことを痛感した。

戦争は終り、公社員となり、そのつとめも終って、郷里での平穩な日目のくらしの中から今回のつどいに参会し、はげしい移り変りの世に生きた旧友達との再会は、通り過ぎてきた人生の節目を、つくづくと思いかえさずにはおられなかつた。

ハイ釣り

布川 実(徳島)

年をとると周囲が心配して反対するので、磯釣りには行かないが、新聞などの情報を見てあちこちの波止へは出かける。これも十一月頃までで、十二月になると待望のハイ釣りシーズンになり、寒さに負けずハイ釣りに出かけている。

撒き餌は市販されてはいるが、自分でつくるのが楽しみの一つ。酒粕、蛹粉、炒り糖に蛹油を調合して根気よく練る。先づこれで大漁間違いないし。

浮子も発泡スチロールの感度の良いものが市販されているが、矢張り桐の立ち浮子が魚の当たりが良く判り、一番自分に合っているように思う。

苦勞するのはテグスの結び。細ものを使うので、不器用に加え視力が落ちてこれだけに閉口する。

今年は暖冬のお蔭で一月頃まではまあまあの成績に恵まれたが、二月にはいり本格的な冬の季節になってからは魚の喰いが悪くなつた。冷気は肌を刺し、北西の風が強くて浮子が目的の場所に飛ばず、波に翻弄されて引きが判らず不本意な成績の連続であつた。

それでも出かけるときには、期待に胸をはらずませ、最初の引きの一発で銀鱗を躍らせながら釣り上げた時の感觸がチラッと頭をかすめる。

釣り果は酒の肴になる。正月に帰郷する息子のために、妻はとろ火でゆっくり甘露煮をつくる。孫たちに囲まれこれを肴に息子と酌み交す味はまた格別である。

静かな山村の清流に糸を垂れ、澄みきつた空気を吸い、雑事を忘れて釣りを楽しむとストレスの解消になり健康増進に大いに役立つ。

外気はまだ頬が痛くなるほど冷たいが、間もなく川岸の木々の芽もふくらみはじめることだろう。今シーズンのハイ釣りも、あとしばらくで終ることになる。

訃報

次の方が亡くなられました。謹んで哀悼の意を表し、ご冥福をお祈りいたします。

氏名	死亡月日	行年	所屬
広川 二郎殿	58・1・3	七十二	高松
香川与四郎殿	58・1・11	八十二	高瀬
横田 正男殿	58・1・30	七十二	高知
川村 秀信殿	58・1・31	八十一	中村
片岡 豊殿	58・2・11	六十五	伊野
寺地 虎雄殿	58・2・14	六三	板野
正木 隆義殿	58・2・18	六四	阿南
戸梶 直弘殿	58・3・1	五九	佐川
西田 綱勝殿	58・3・3	八九	南

中国残留孤児に思う

大手 待雄(松山)

中国残留孤児四十五人のうち二十三人の方は名のり出る血縁のないまま思いを残して帰国した。本当にむごいことである。異国人の養父母に育てられ、日本人であることを知ってからはどのような思いで生きてきたのであろうか。望郷の念に駆られても国交の無かつた日本とは、なすすべもない長い年月があり、三十七年が過ぎた今となつては日本の父も母も亡くなつてしまつたのであろうか。二十三人の父方は養父母のもとに帰つて心を開き、年もとつておられるであろう中国の父母に精一杯の孝養を尽くされるようお祈りいたしたい。敗戦動乱のあの時期では、残して帰るほうが子のためにしあわせであると信じていた実の父母を信じて……。



やまもも句会(高知)新春句抄

畦焼いてあるひとところ恵方道 大西 瓶子  
 荒縄の海苔に海への風止まず 小松としみ  
 厄年の古札納や節分会 公文 政恵  
 夕茜うつりて堰の水細る 小笠原芳子  
 連れ添ふて小春の苑の神の鶏 安村 淑  
 鶯一羽点となり行く初明 田中 兼尾  
 寒垢離の読経の聲の響合う 寺村 愛子  
 梅の宮あふれし絵馬を掛け重ね 柴田マサ子  
 恋猫の眼ひかりて過ぎにけり 池内 寿子  
 七草を摘みに来し里みぞれ降る 近森三千代  
 煮物して神祭るのみ女正月 野村 俊  
 はこせこの忘れものあり春の宮 岡崎 花子  
 城山の坂新しき落椿 太田 佳代  
 鷺一羽広田にすくむ冬の雨 溝渕乃文字  
 黒汐の匂ふ日溜り花なづな 岡村 とき  
 夫れぞれの神に供へて雑煮著 石川 房子  
 水涸れてかくもみにくし冬の川 道倉ただを  
 寒の灯の星かと紛ふ海暗し 別役 幸子  
 寒垢離や日射あらざる寺の庭 井上すみ子  
 寒垢離の足拭きあがるお堂かな 今田 直水  
 寒垢離の手桶に印す華厳経 田ノ内露風  
 枯蔓の梢に吹かるる梅の花 横田すが子  
 白緒下駄響き下山の寒行僧 小笠原ひろみ  
 除夜篝燻りて杉の星消ゆる 井上ひろし

電電OB友佳里句会(松山)新春句抄

帯の鈴こつぱりの鈴春着の子 上田 南堂  
 交々に屠蘇酌み交し娘婿

波先を逃げては啄む磯千鳥 大野 峰生  
 ご詠歌の録音流るる春の寺 「ありゃ」て打ち「おう」て蹴返し初蹴鞠 大西王魚子  
 湖光るぼつんと一つ鳩おきて 温泉けむりに蹤いて歩むを恵方とし 後藤 波久  
 ほのぼのと塔浮かび立つ初茜 石鎚は晴れて雪なし皷始 佐久間瀨湖  
 破魔矢鈴ふりふり孫がさきをゆく 友垣を生ひ茂らせん初句会 佐賀 青也  
 暁雲を開きて初日出でませり 落つるより消えつゝ雪の降り止まず 坂口 好史  
 買初や亡母の好みし日切焼 初明り十字に受けて聖母園 玉川 都夢  
 数の子を噛む帰らざる思ひ噛む 受験子の父とて破魔矢載きぬ 高本たかし  
 ビルの灯の消えず師走の街更ける 熟田津の歌碑を巡りて初詣 仲谷あきら  
 果さざる一日一句日記果つ 平穩の日々を記さん日記買う 二宮 正之  
 破魔矢受く巫女のふるまい忙しく 寒椿咲いて伊予路はあたたかし 乗松春仙  
 子の持つ手破魔矢の小鈴揺れており 千支の年待てり紅白ききながら 二神 三郎  
 バドミントンつく広場あり町小春 散り初めてより山茶花の盛りなる 藤井不二夫  
 片言の年詞述べしはにくき孫 初春や地蔵の前掛新らしく 森 翠雨  
 音高く数の子を噛む子の帰る 初弾きの琴の音高き「青海波」 山崎よしみ  
 実南天映ゆるや詩吟五稜閣 配られし菓子も鮮やか初句会 横山 蔵峰  
 スキー場雪の乏しと越後より 篝火のくすぶり細き初詣 水関さとる

往還に白鷺を見し初詣  
 寒卵この掌に生命ねむれるか 渡部 汀耕  
 吊り干しの箒乾かず年暮るる

投稿規定

- 一 会員消息 四〇〇字以内
  - 二 短歌、俳句、川柳 五首又は五句以内
  - 三 随筆、随想 六〇〇字以内
- 原稿締切 六月一日  
 原稿の取扱いはお任せねがいます。

編集後記

▽暖冬のためは春寒の日が多く、冬のトンネルはなかなか通り抜けられない思いがしましたが、会報がおてもとに届く頃は、お彼岸もすみ本格的な春を迎えて、花の便りにてにぎわっていることでしょう。  
 △人勧の凍結もあって四十七年度は年金が据え置かれ、また国鉄救済のため共済年金の統合が必至となり、近く統合のための法案が国会に提出される模様で、どのような結果がもたらされるのか見守りたいと思います。

電友会四国連合会報 第四二号

昭和五八年四月一日発行

編集発行 電友会四国連合会

事務局

松山市一番町四丁目(千七九〇)

四国電気通信局内

電話(〇八九九)三六一二〇二三

印刷 四国電話印刷株式会社